



藤本伊三郎先生を偲ぶ

日本の地域がん登録の礎として

岡本 直幸

神奈川県立がんセンター

我が国の地域がん登録の礎を築かれました藤本伊三郎先生の訃報をお聞きし、また、ご家族だけの密葬を取り行う旨のことを耳にしたときに、「師と称される方はなんと孤独なのだろうか」という思いが頭の中をよぎりました。この思いはご家族やご親族に対してではなく、私を含めた社会に対する感覚でした。もし、地域がん登録が早々と国の事業として実施され、その必要性や価値が認識され、わが国のがん対策が世界を席卷するような立場であったならば、国民の多くの方々やがんサバイバー等の方々から感謝の気持ちと労いの言葉が届けられたのではないかと忸怩たる思いがしています。

皆様ご承知のように、藤本伊三郎先生は地域がん登録に並々ならぬ熱意を込められ、その普及とシステム開発、精度向上等に多大なるご尽力をされました。私も鳥取県の地域がん登録を担当させていただいた時代に多くのご薫陶を受けさせていただきました。特に今でも思い出しますのは、毎年研究班に提出するがん罹患のデータをすべて手作業でチェックされ（コンピュータの普及する前のことですので）、処理の簡便な仕方や表作成の方法の細かい指導や研究班の報告の書き方、研究費の執行の適正化などの指導を受けたことです。今ではパソコンによって簡単に集計・解析が可能となりましたが、当時は本当に大変だったことを思い出すとともに、的確なご指導に感謝する気持ちが沸々と湧いてくるのを感じざるをえません。その藤本先生の思いと熱意と技術を伝えて行くことも私どもの一つの課題であろうと改めて感じております。

この原稿を依頼されてから 1 月以上が経ちますが、昨日（1 月 17 日）まで執筆することを躊躇し

ていました。なぜなら、昨日は阪神淡路大震災の 15 年目に当たるからです。あの日、藤本伊三郎先生の右腕で（地域）がん登録を引き継がれると思われていました日山與彦先生がお亡くなりになられたからです。震災以後、藤本先生はその件に関して私たちに対して何も仰ることはありませんでしたが、お心の中に大きな空洞を抱えられたのではないかと感じております。

今、藤本先生を偲んでこの追悼文をしたためていますが、あの日を契機に藤本先生のお心が宙に浮いて見えたのはわたくしだけでしょうか。死は生き物の定めとはいえ、人間にのみ心との決別が必要なのは神のなせる業なのでしょう。ご冥福を祈念するとともに、藤本先生の思い描かれた地域がん登録の実現へ向けて、微力な力をもう少し注ぎたいと心新たにしたところです。合掌。



藤本伊三郎先生

大阪府立成人病センターにて（2002 年）

| 目 次 | |
|-------------|------------------------|
| 藤本先生追悼（岡本） | 1 登録室便り（茨城）.....8 |
| 〃（津熊） | 2 第 18 回総会研究会報告.....9 |
| 〃（花井） | 3 第 19 回研究会第一報.....10 |
| 賛助団体紹介 | 3 IACR2010 準備進捗.....10 |
| 藤本先生追悼（大島） | 5 NCC 地域がん登録室便り.....11 |
| 〃（祖父江） | 6 編集後記.....12 |
| 協議会 NPO 法人化 | 7 関連学会一覧.....12 |